

最後に

和歌山ニットのブランド化、海外販路開拓と活動していますが、一番大事なのは拠点となる和歌山の地だと思っています。

和歌山は日本でもナンバーワンの綿ニット製造産地であり、国内生産の4割以上を生産しています。しかしそれを地元のひとでさえ知らないのが実態だと思います。実際、私も和歌山で生まれ育ってきた訳ですが、自分の家業のことは知っていても、和歌山がそんな大きな産地だとは知りませんでした。

地元で知られずにブランド化など出来ないのではないのでしょうか。昨年、試みとして小学生に綿の種を

育ててもらい、それを糸にし、生地にし、染めて、縫製して製品にして子供たちにプレゼントする。その見学してもらうことで、和歌山にこんな産業があるんだよと知ってもらう。そういう事業を考え、実施しました。

産業を知ってもらうことで、将来の人材確保にもつながるのではという考えもあります。

和歌山ニット組合としましては、老若男女かわからず見学会など対応していこうと考えていますので、もしそういう需要がありましたら、お気軽に声をかけてください。

よろしくお願いたします。



ありがとうございました

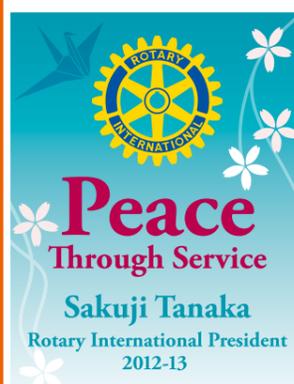
- 内畑 瑛造さん 吉田篤生さん卓話たのしみにしています。
- 村田 昌之さん 3月9日、10日両日会長エレクト研修会 (PETS) に出席しました。
- 谷口 文利さん 吉田さん卓話楽しみです。
- 亀田 直紀さん IDM、糟谷班長、樫畑副班長ありがとうございました。篤っちゃん卓話ガンバレ!
- 樫畑 友洋さん 吉田くん、卓話楽しみにしています。
- 松田 弘治さん 入会させていただいて3年になりました。今後とも宜しくお願いします。
- 後 亮 さん 昨日、2人目の子供が生まれました。男です。母子共に健康です。
- 佐藤 義記さん 吉田さん、卓話楽しみにしています。
- 島 公造さん 吉田君日頃の活躍ご苦労様です。また本日の卓話楽しみにしています。よろしく。
- 山本 進三さん 吉田あっちゃん、本日の卓話楽しみにしています。
- 乾 敦雄さん 吉田さん卓話よろしくお願いたします。
- 阪神タイガース応援団一同

本日の累計 31,150円(計11名 12件)(お誕生日お祝い 429,240円 皆出席表彰 55,000円 その他 1,739,259円 累計額 2,223,449円)

本日の例会	3月21日(木)	前回の例会	3月14日(木)
●卓話「最近の学校事情」 和歌山市学校教育課文化部長 金谷 善進さん		●卓話「会社の業容について」 当クラブ会員 吉田 篤生さん	
●お誕生日お祝い 中野 久生さん 3月20日		●ロータリーソング 「四つのテスト」 黒田 純一 ソング副委員長	
●ピアノ演奏 Es Durのピアノ線 (YOSHIKI) Forever Love(YOSHIKI)	中井 利枝さん		

次回の例会	3月28日(木)	メイキャップ情報 (敬称略)
●「ロータリーソング指導」 全日本ピアノ指導者協会会員・ 和歌山市楽しい歌声の会 事務局員 吉田 陽子さん		3月17日(日) 地区チーム研修セミナー 松田 洪毅 3月18日(月) 和歌山アゼリアR.C. 角谷 芳伸、黒田 純一、野田 真司、山野 武彦

国際ロータリー第2640地区 和歌山東ロータリークラブ 創立/1959年2月23日
 例会場/ルミエール華月殿 和歌山市屋形町2-10 TEL (073)424-9392 例会日 木曜日 12時30分
 事務局/〒640-8142 和歌山市三番丁6関西電ビル5F TEL (073)432-4343・FAX (073)432-4845
 会報・広報委員会 谷口 文利 笹島 良雄 野井 晋



「確信と絆で作ろう、希望の未来へ!! 今日より一歩」

「奉仕を通じて平和を」

国際ロータリー 第2640地区 和歌山東ロータリークラブ
 URL http://www.werc.jp E-mail info@werc.jp

2013年3月21日(木)
 週報 / VOL.54 No.35(通巻2581)

会長報告

島 公造 会長



皆さんこんにちは。この一週間久しぶりにゴルフ2回行ったのですが9日の土曜日この時期にしては気温が高く、ウェアは半袖でやりました。帰り車で気温を測ると23度でした。所が次の日河内長野でお通夜気温は1度さむーでした。一日で20度以上の差なんて和歌山で考えられないのです。12日から東大寺二月堂のお水取り本来この頃最後の寒波が来てこれが過ぎたら春と決まっていた。近年、気温のアップダウンはやっぱり地球温暖化のせいらしいです。連鎖して中国からは大気汚染の塊が飛んでくるし皆さんくれぐれも体、特に鼻、気管支に気をつけて下さい。先週私も耳鼻咽喉科に行きましたがとても入れません。2時間30分待ち、入り口で帰ってきました。たぶん日本中がこんな状態ではないかと思います。

幹事報告

山本 進三 幹事



1. 識字率向上運動への協賛について
書き損じの葉書、未使用切手、未使用テレホンカードがありましたら、ご協賛ください。締切は4月15日(月)です。
2. GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 3月号に、当クラブの笹島良雄さんが地区社会奉仕委員会 顧問として掲載されましたのでご報告しておきます。
3. また新入会員の紹介欄には、当クラブの平岡正至さん、吉増亨さんが掲載されました。重ねてご報告しておきます。
4. 下記のお知らせ・案内が来ましたので回覧します。
・公益財団法人米山梅吉記念館より、館報 2013春 Vol. 21
・和歌山青年僧の会より、第22回文化交流会のご案内

村田次期会長



4月13日(土)午後2時より、私の自宅にて「桜まつり」を催したくご案内させていただきます。月日の経つのは早いもので、自宅を建築して25年が経ちました。中村瑛君と宮坂幸伸君のお世話で東クラブから八重桜10本を頂きました。毎年見事な花を咲かせています。両君を偲びながらお食事をしたく思います。ご家族の方共々ご参加をお願いします。

出席報告

会員数 45名(内出席規定適用免除会員17名) 乾 敦雄 S.A.A.

3月14日(本 日)	29名	80.6%	2月28日(先々週)	31名	83.8%	(次席者6名)
------------	-----	-------	------------	-----	-------	---------

皆さん、出席してください。

卓話「会社の業容について」

吉田 篤生 会員



みなさんこんにちは、吉田です。最近、海外出張が多いのですが、何をしているのか疑問に思われている方もおられると思いますので、釈明という訳ではありませんが、近況を報告させていただきます。

それと今月は識字率強化月間です、それに関しても少し話させていただきます。海外出張に行く際は、もちろん航空機で行くのですが、最近の飛行機は座席ごとにモニターが付いています。そのモニターで映画やゲーム、音楽など各々好きなものを選べます。私が搭乗したのは、予算やルートの関係で、エアーフランス、チャイナエアー、オランダ航空など海外の航空会社を多く使いました。そうするとモニターに日本語表示はほとんどなく他言語を使っている利用となります。先月、フランスに行った際もエアーフランスの機体のモニターには、日本語の表示はありませんでした。フランス語での表示です。大学時代にフランス語を履修したことはあるのですが、2回落第してなんとかお情けで単位を取得した私にはほとんど理解できません。

しかし画面を良く見ると、端っこに英語でENGLISHと表示されたアイコンがあり、それにタッチすると表示が英語に切り替わりました。画面のレイアウトは同じですが、文字が英語に切り替わるだけでスッと見やすくなって、画面の意味が理解しやすくなりました。とは言っても、私は片言の英語しかできませんのですが…それでもフランス語よりは、断然判りやすい。その時、これが識字なんだな、と思いました。

通常、識字率というのは母国語に対してのもので、日本人の識字率は100%に近いので、日常識字率というものを意識することは少ないと思いますが、他言語の中で識字ということの重要性を確認した次第です。

文字が読めないということは本当に不便です。世界中の人々が、せめて母国語だけでも読み書きできるように支援する。識字率向上運動は、その一助となりますので、皆さん御協力よろしくお願いたします。

それではここから本題に入らせていただきます。

何故、最近私の海外出張が多いかと言う事ですが、2011年より和歌山のニット製造業の組合でJAPANブランド育成事業というのを和歌山県の協力を仰ぎながら国の支援を受けて取り組んでいます。その中の事業のひとつとして海外販路開拓事業というのをしています。弊社は染色業なのでニット生地を染めてはいますが、生地の販売はしていません。しかし和

歌山のニット生地製造業社とは切っても切れない関係にあるので、以前から和歌山ニット組合に所属しております。

海外販路開拓事業は、次世代の和歌山のニット産業が生き残って行く為の販路開拓を、今の時点からやっておくという目的で行っているのですが、近視眼的な活動でない為か参加企業が少なく(組合加盟企業80社以上のうち初年度参加4社)その活動を応援する為、また弊社自体も将来的な戦略として生地や製品の製造及び販売のノウハウを取得・確立する為の目的もあり、参加しております。

初年度(2011年)は調査事業の年として、調査地としてパリとニューヨークを選択しました。パリは世界最高レベルの生地の展示会であるプルミエールビジョン(以後PV)という展示会が開かれる場所であり、ニューヨークは世界最大の市場として選びました。

まず9月にパリへ向かいました。PVは年2回開催され2月に春夏物中心の展示、9月には秋冬物が中心の展示となります。パリでは同時期にPVと同じ日程でテックスワールドという展示会も開かれています。PVはイタリア企業が半数以上を占める高級生地の展示会なのですが、テックスワールドはPVに出展出来ない企業が出展し、中国、台湾、韓国、トルコ、インドなどの企業が中心です。

まずテックスワールドを観に行ったのですが、中にはいわゆる後進国とは思えないほどの品質の生地(トルコ企業が多かった)もあり、なかなかのものだなと思いました。

その後、PVを観に行ったのですが、流石PVはよりハイレベルで高感度な生地が多く、我々が出展を目指すならPVだ、という思いを強くし、目標をPV出展に決めました。

次に11月にNYに向かいました。NYでは和歌山県庁に支援を頂き、NYにある日本国総領事館をお借りして、我々の製品の展示会、及びレセプションパーティーを行いました。

ここには在米和歌山県人会様や日本商社の駐在員といった日本人のみならず、ジェトロや個々の伝手で招待したアメリカのアパレル関係者にも来場いただき、大盛況のパーティを開催することができました。ニット生地のみならず和歌山全体のアピールをするということで熊野古道や白浜の紹介をしたり、和歌山の食品として梅干や梅酒を振舞いました。中野酒造様にも梅酒等ご提供頂きました。この場をお借りしてお

礼申し上げます。

また、NY在住の日本人若手デザイナーとも会談し3名の方には提携デザイナーになって頂けました。



「ニューヨーク商談会、エンパイア・ステート・ビルディングにて」

その後、サンフランシスコ経由で帰国したのですが、訪米メンバーの中に、昔ひいお爺さんが和歌山からサンフランシスコに渡りクリーニング屋で働き、帰国後その稼ぎを元手にニット生地の編み機を購入し創業した企業がありました。

その企業は一昨年、和歌山県から100年企業で表彰されています。移動途中でゴールデンゲートブリッジを渡ったところの展望台に車を止め、あたりを一望したのですがひとごとながら感慨深くなりました。

こうして調査事業の一年が終わり、2012年度ブランド力向上の為の年が始まりました。

参加企業は少し増え10社になりました。

8月には、NYエンパイアステートビルで2日間、そしてNY島精機オフィスを借りて1日の計3日の和歌山ニット組合の展示会を開催することが出来ました。

この展示会には弊社も出展しました。今まで日本国内で2度ほど展示会には出展しているのですが、委託加工という形態ゆえ見せ方の難しさを感じていました。そこでNYに向けて製品を開発(糸で加工することで機能をもたせたホールゲームセーター)し、ディスプレイをしました。やはり製品があると分かりやすくアピールできるようで、その製品は日本に帰ってからも重宝しています。そこから弊社も製品事業に乗り出そうかな、というプランも進行中です。

この時は週刊NY生活という在米日本人向けの新聞が取材にきてくれました。その様子は今でもユ-

チューブに残っているようなので、興味があれば見たら“和歌山ニットNY商談会”で検索して見て下さい。

そして11月には和歌山県主催のトルコ商談会に参加しました。これは前年にみたテックスワールドの中で、トルコの生地の良さを見たので、弊社が協力することでトルコ生地にJAPANクオリティを付与し、高付加価値化し、日本または他の国で販売する等の連携が出来ないかとの目論見があったのですが、上手くマッチングする企業とは出会えませんでした。我々は日本で、多品種・小ロット・高付加価値ということに生き残りの道を見出していますが、トルコでは安く大量に生産することが社是の企業がまだまだ多く、中には日本と同じような価値観を持つ企業もあるのですが、きわめて少数なのでしょう。技術的なすり合わせをしようとしたのですが評価基準が違うようでした。

年が変わって今年2月には再びPVに行ってきた。

前回と違うのは、この1年半の間に組合内の企業2社がPV出展にチャレンジし、出展の許可が下りていたことです。

弊社は出展2社の加工も請け負っていますので、PVに向けての試作品の開発も協力して行いました。

その関係があるので、今回のPVには私も出展企業の協力工場という形で、ブースに入り接客のお手伝いをしてきました。

特に懇意にしている1社には、弊社提案の加工生地を置かせて貰いそのリサーチも兼ねてです。

PVではアワードといって、出展各社の生地から何点かピックアップして会場中央にまとめて展示する仕組みがあります。それに新規出展の和歌山の2社からもそれぞれ10点近くの生地が選ばれました。もちろんその生地の多くは弊社が加工したものであり、中には会場内で配られる新聞に載せて頂ける生地もあり非常に嬉しかったです。

またPVの審査員が各社のブースを巡回されていたのですが、我々のブースに来た際、弊社持込の加工を見て、『こういう加工は見たことがない。面白い。』との評価を頂きました。『ただ見せ方が下手なのでもっとこう工夫したら…』と結構細かくアドバイスを頂きました。非常にありがたいことで、次回9月には(継続して3年は出展したい)、よりよい見せ方を出来るようにしなければと考えると同時に、いずれは単独で出展できるだけの形を作りたい、力を持ちたい、との思いを強く持ちました。